

者也。仍如件。

天正十二年

九月十六日

利家 在判

千秋主殿助殿

九月十七日。前田利勝、奥村家福に、その羽咋郡末森に於ける戦功を賞す。

【前田家雜錄】

一八六四

態令啓達候。仍今度者、佐々内藏助當城取卷雖相攻、其方丈夫ニ被相踏候付而、早速懸付得勝利、遂本意之段大慶此時候。誠無比類御働共無是非候。利家御満足不_レ及申候。其元彌普請等被入念可被_レ申付事肝要候。爰元無相替儀候間可_レ御心易候。雖不_レ及申候、萬事御氣遣專一候。猶追而可_レ申候。恐々謹言。

天正十二年
九月十七日

孫 四

利勝 在判

奥村助右衛門殿

【加能越古文叢】

一八六五

態令啓達候。仍今度者、佐々内藏助以多勢、末森之城不分晝夜取卷雖相攻、其方父子三人丈夫ニ被相踏依堅固早速驅付得勝利、遂本意候段大慶此事候。誠無比類御働共無是非候。利家御満足不_レ及申候。其元彌普請等も被入念可被_レ申付事肝要ニ候。爰元無相替義候間可_レ御心易候。雖不_レ及申候、萬事氣遣專一ニ候。尙追而可_レ申候。恐々謹言。

天正十二年
九月十七日

孫 四

利勝 在判

奥村助右衛門尉殿

(これら二通はその出自を同じくすといへども、後者は原形を去ること遠し。)

九月十七日。前田利勝、千秋範昌に、その羽咋郡末森に於ける戦功を賞す。

【遺編類纂】

一八六六

今度佐々内藏助、當城取卷雖相攻候、碎手堅固ニ被相踏

候付而、則懸付及一戰、即時切崩得勝利候段、併各丈夫之覺悟故、早速遂本意大慶此時ニ候。無比類御共神妙之至候。利家御満足之事者不_レ及申候。其地普請等、彌入念可被_レ申付候事專一候。當表諸口何茂無異儀候。是亦可_レ心易候。猶追而可_レ申候。恐々謹言。

天正十二年
九月十七日

孫 四

利勝

千秋主殿助殿

(一本に九月十九日に作るもの恐らくは非なるべし。)

九月十八日。上杉景勝の臣須田滿親、前田利家に、約に依り後詰として越中境の要害に出馬したることを報す。

【温故足徵】

一八六七

追而任到來、初雁貳進覽候。寔不_レ顧左道躰候。恐々。雖未_レ申通候一輪令馳候。仍佐々内藏助企逆心、栗柄・小原口相働之由候之條、兼而被申合首尾、爲後詰越中向境之要害押詰、在々令放火候。從景勝以直書被申合候。

近日此口へ可爲進發候。今般能・加兩州堅固之御備、誠以御勇力不_レ淺存候。貴國當方被申談上者、佐々内藏助可討果事不可_レ回踵候。從此方被差上候飛脚下向、才覺分を尾羽表秀吉公思召儀由、目出珍重候。尙委細河口定左衛門尉可_レ令演說候。恐々謹言。

天正十二年
九月十八日

滿親 在判

前田又左衛門尉殿

御宿所

九月十八日。上杉景勝の臣土肥政繁等、能登の前田安勝に、前田利家の後詰として須田滿親の出馬したることを報じ、その交誼を求む。

【古蹟文徵】

一八六八

雖未_レ申通候令啓達候。仍而佐々内藏助栗柄・小原口相働由候之條、當方被仰合首尾、爲御後詰須田相模守初而、隨分衆數多令同心、越中向境之要害被押寄、在々被放火候。近日可爲出馬候。今般能・加兩州堅固之御備、誠